

切り花生産における持続的生産体制の構築

① 取組のきっかけ・思い

本校では露地栽培でキク・アスター、ビニール温室でトルコギキョウを栽培している。これらの切り花は夏季に花束にして地域の皆様に販売を行い、好評を博している。ところが近年、キクの白さび病やトルコギキョウの立枯病などの病害が発生し、品質が低下している。現状は薬剤散布による防除に依存しているが、今後、耕種法や減農薬（適期防除など）を検討・実践し、持続的生産体制の構築を考えている。また、有機たい肥の投入により、化成肥料の低減を図る。生徒自ら考え、取り組むことで「みどりの食料システム戦略」に対する意識の啓発を目指す。



キクの白さび病



トルコギキョウの立枯病



② 取組を通じて伝えたいこと・取り組みの現状



昨秋に稲わらや有機たい肥を投入し、化成肥料を低減。定期的で計画的な薬剤散布により農薬量の低減。



➡ 今夏は白さび病の発生予防に成功し、品質の良いキクが収穫できた。しかし、アスターは草丈の低い草姿の悪いものになってしまった。



昨冬にマルチングにより土壌の熱消毒。コーヒーかす、ソバガラを投入し、無農薬・無化成肥料栽培。土壌分析を行い化学性や生物性を確認し、次年度に生かす。



➡ 今夏は草丈が低いものの、一定程度の品質のトルコギキョウが収穫できた。一部に害虫による食害が発生。夏季のハウス内の高温化が課題。